

15 物語文を読む

学年	
組	
名前	

1 次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」とどいた外国の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。
ア イ ウ の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましよう。

「読まなくても、みるだけでいい。」
 おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ。」
 と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。
 もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。
ア はこれくらいのことでも、顔をまっ青にしていまるか、さもなければまっ赤になって、こんなふうに言っている。
ウ イ をしか
 「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい。」

(斉藤洋『たったひとりの伝説』による。)

ア

母さん

イ

おじいちゃん

ウ

ぼく

平成22年度
 全国学力・学習状況調査
 国語A問題
 平均正答率 全国53.5%